

こがうさくら小督桜は大井河の北三軒茶屋げんちやの東、藪の中にあり。こがうのつぼね小督局は桜町中納言茂範卿さくらまちゆうなごんしげのりきやうの女、禁中一の美人ならびなき琴の上手なり、高倉院たかくらのゐんの御愛妃なりしが、平相国清盛へいしやうこくきよもりに恐れて北嵯峨野さかののに隠る。弾正仲国だんじやうなかくには勅を蒙りて、寮の御馬を給はつて明月に鞭をあげ、西をさしてぞあゆみける。をじかなく此山里と咏じけん、さかの、秋の夜の空いと哀に、ところぐく尋めぐりしに、亀山かめやまのあたりちかく松の一とむらあるかたに、幽に琴の音聞えぬれば、仲国なかくにさてこそと嬉しく門た、きおし入て、御文をわたし、頓て御返事を給はりいそぎ帰り参りしに、主上はなほゆふべの御座にならせたまひける。〔くはしきは平家物語へいけものがたりにあり〕